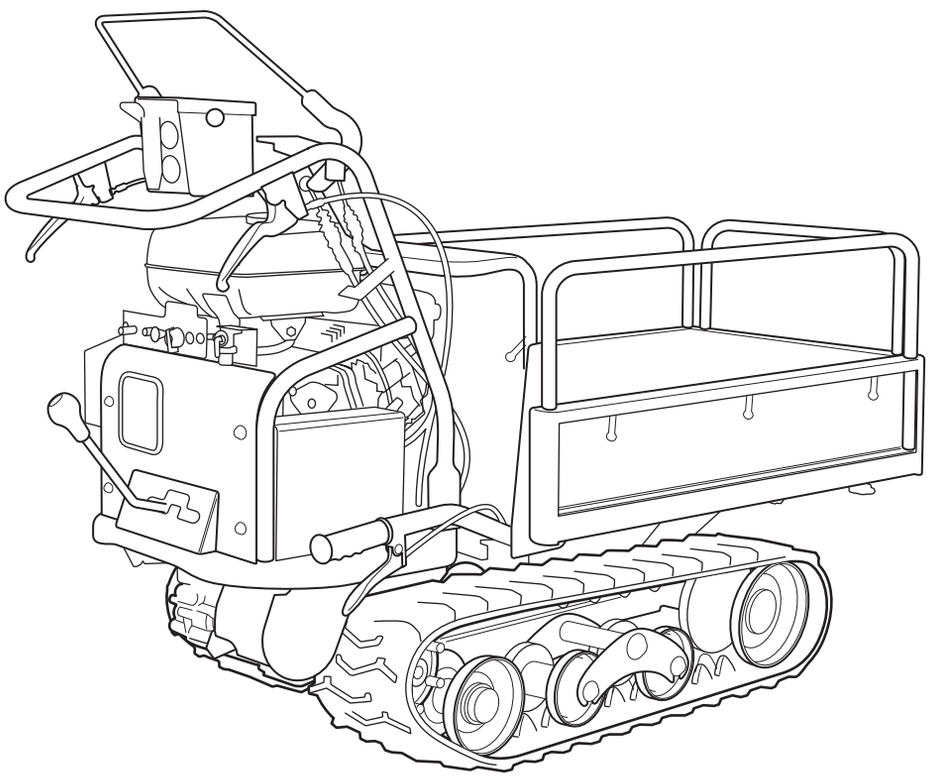
CANYCOM

発電機付小型運搬車
ＥＧ６０

取扱説明書



⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

3568 7001 001

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195（代）　FAX (0943)75-4396

株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp/

■本社営業部 TEL 0943(75)2195 FAX (75)4396
■貿易センター TEL 03(3552)6277 FAX (3552)6288
■東京センター TEL 03(3552)6255 FAX (3552)6288
■仙台センター TEL 022(281)1255 FAX (281)3141
■埼玉センター TEL 0495(77)4511 FAX (77)1561
■大阪センター TEL 0790(42)6031 FAX (42)6035
■広島センター TEL 0824(34)5996 FAX (34)5997
■福岡センター TEL 0943(76)2583 FAX (75)5126

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

・本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

⚠ 警　告

・本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

・本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警　告　用　語	意　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

保証とアフターサービスについて

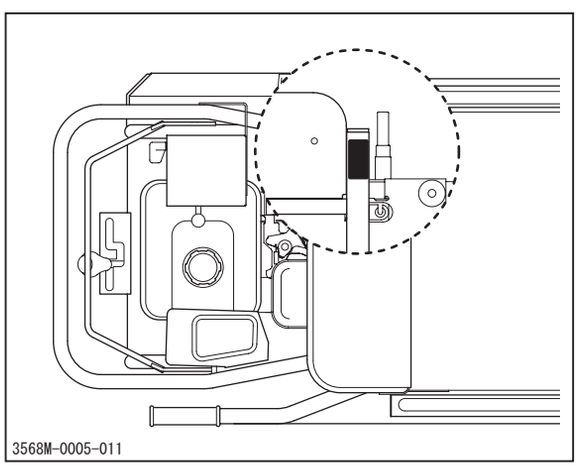
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。詳しくは本書巻末に貼付の保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**を参照してください。（☞10ページ）

型式ラベル位置



型式ラベル

補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

国内排出ガス自主規制について

このラベルは、（社）日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

（社）日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。
本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページでご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp

目　次

１．安全に関する注意事項　1

本製品に添付してある警告ラベルについて ………… 1

安全運転・作業のための心得 ………… 2

運転前の心得 ………… 2
走行時の心得 ………… 3
積載時の心得 ………… 4
駐車時の心得 ………… 5
発電機使用時の心得 ………… 6
整備時の心得 ………… 7

２．各部の名称とはたらき　8

各部の名称とはたらき ………… 8

３．製品仕様　10

本製品の仕様 ………… 10

付属品明細 ………… 12

４．運転と操作　13

運転前の準備 ………… 13

始業点検 ………… 13
燃料の点検と補給 ………… 13

運転のしかた ………… 14

始動のしかた ………… 14
運転のしかた ………… 17

停止のしかた ……19
変速のしかた ……19
駐車のしかた ……20

作業のしかた …… 22

ダンプ操作 ……22

発電機の使いかた …… 23

交流（ＡＣ）の取り出しかた ……24
交流（ＡＣ）ブレーカー機能 ……25
機器の使用可能範囲 ……26
電圧降下について ……26
直流（ＤＣ）の取り出しかた ……27
直流（ＤＣ）ブレーカー機能 ……28

５．保守・お手入れ 29

定期点検表 …… 29

エンジン・発電機の点検 ……29
車両の点検 ……30

給油・給水一覧表 …… 32

給脂一覧表 …… 32

消耗部品（交換部品）一覧表 …… 33

カバーの取り外しかた・取り付けかた …… 34

カバーＡ ……34
カバーＢ ……34

エンジン …… 35

エンジンオイルの点検・補給・交換 ……35
エアクリーナの清掃・交換 ……37
点火プラグの点検・清掃・調整・交換 ……38
フューエルストレーナの点検・清掃 ……39

走行装置 …………………………………… 40
クローラの点検・調整 ……………………………… 40
トランスミッションオイルの交換 ………………… 41
Ｖベルトの点検・調整 ……………………………… 42
ベルトストッパの調整 ……………………………… 43
ブレーキの点検・調整 ……………………………… 43
サイドクラッチの調整 ……………………………… 44
給脂 …………………………………………………… 45
使用後のお手入れ ………………………………… 46
通常使用後のお手入れ ……………………………… 46
寒冷期使用後のお手入れ …………………………… 46
長期保管のしかた ………………………………… 47

６．不具合発生時の処置 48

不具合診断表 ……………………………………… 48

７．本製品の移送 51

トラックへの積み降ろし要領 ……………………… 51

８．配線図 52

配線図 …………………………………………… 52

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

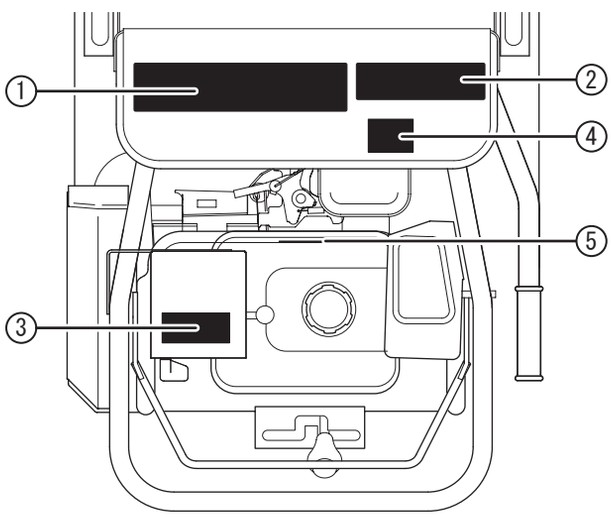
本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

・警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

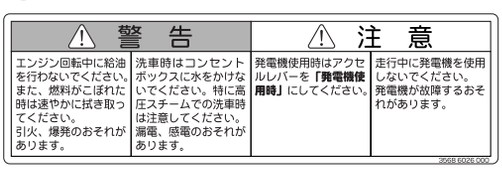
・警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

・警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。



① 3553 6025 000

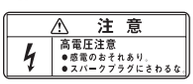
② 3568 6026 000



③ 33K9400103

④ 0732004650

⑤ 0732004680

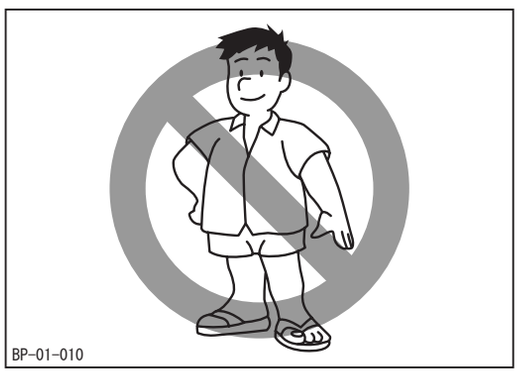


3568M-0101-011

安全運転・作業のための心得

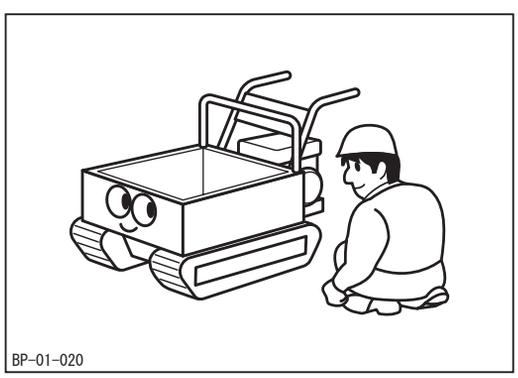
運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

運転前の心得



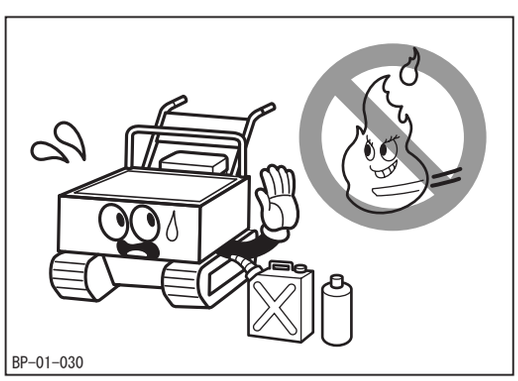
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服装を心がけ、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



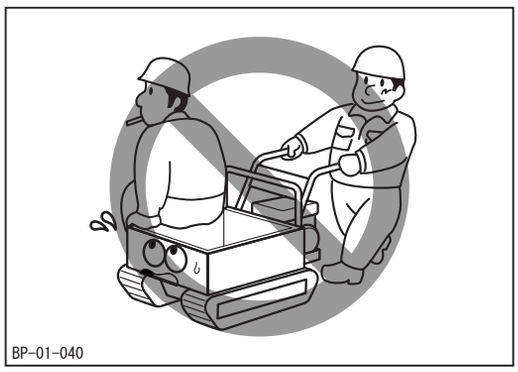
始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。



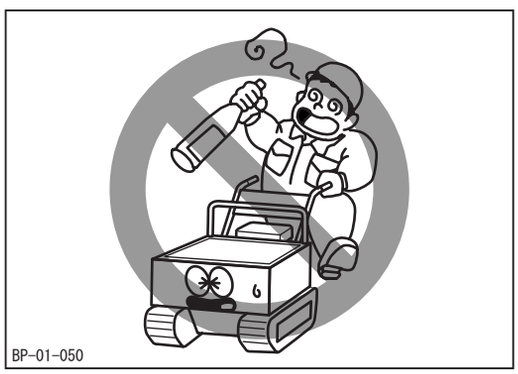
火気厳禁

燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。



乗車禁止

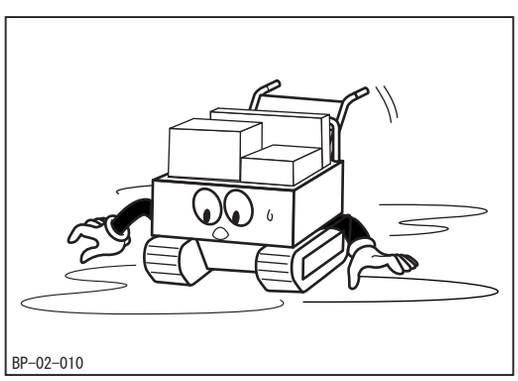
本製品は乗車できません。人を乗せての運転は行わないでください。



無謀運転禁止

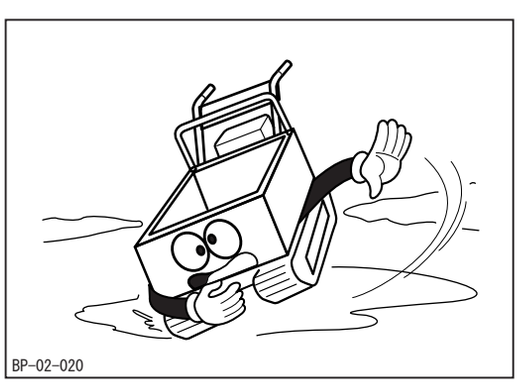
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない若年者による運転・作業も行わないでください。

走行時の心得



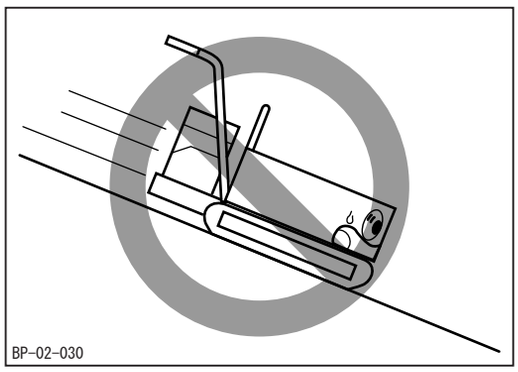
安全速度遵守

発進の前には必ず周囲の安全を確認し、走行時は走行路の勾配、路面の状態に応じた安全速度で走行してください。



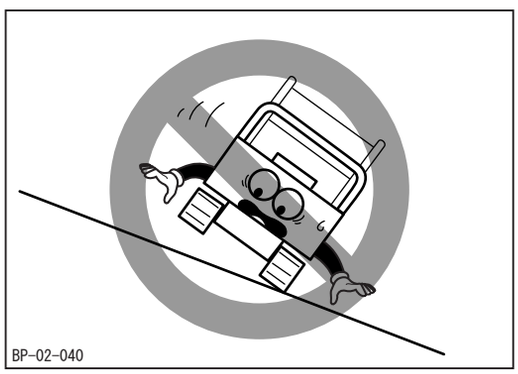
急発進、急加速、急旋回、急停止の禁止

急発進、急加速、急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。



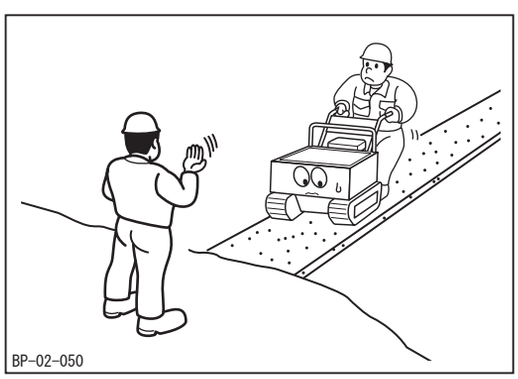
下り坂では低速で走行する

下り坂の前で一旦停止した後、変速レバーを1速に入れ、下るときにはエンジンブレーキを使用しながら低速で走行してください。



斜面の横断禁止

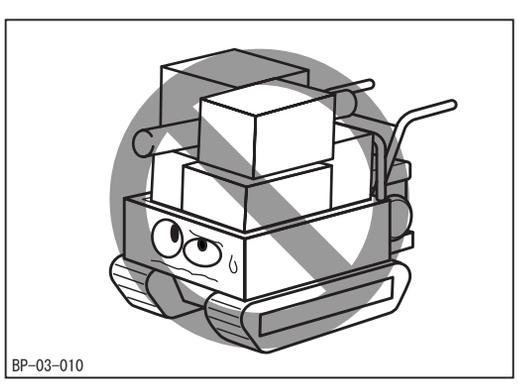
斜面はまっすぐ上り下りし、横断しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。また、斜面での旋回は行わないでください。



危険な場所では誘導者の指示に従う

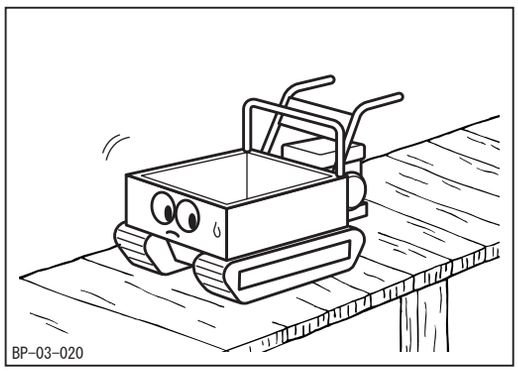
見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

積載時の心得



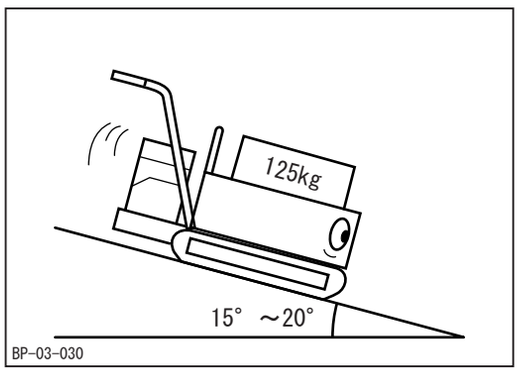
過積載禁止

本製品の最大作業能力を超える積載はしないでください。


BP-03-020

制限重量に注意

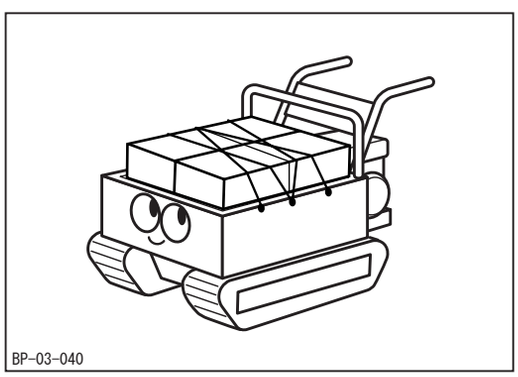
木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



BP-03-030

傾斜地での積載量に注意

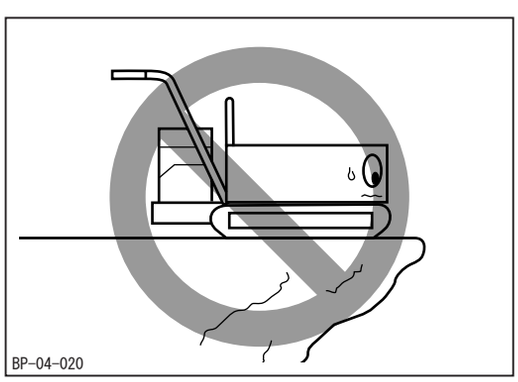
15° ～20° の傾斜地では、積載量を125kg以下にして走行してください。20° を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。


BP-03-040

積荷は正しく載せる

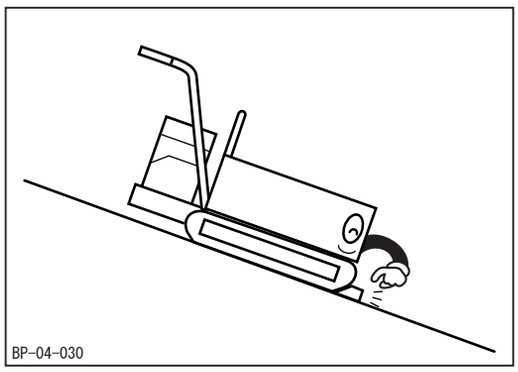
積荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定してください。また、積荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

駐車時の心得


BP-04-020

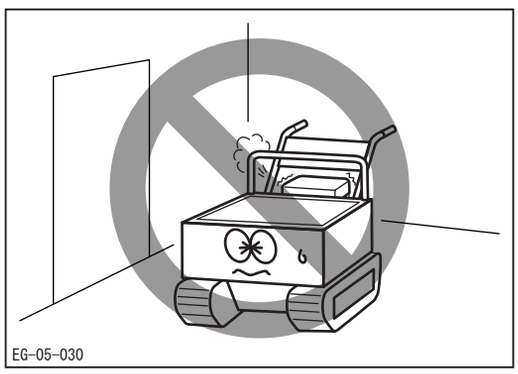
危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。

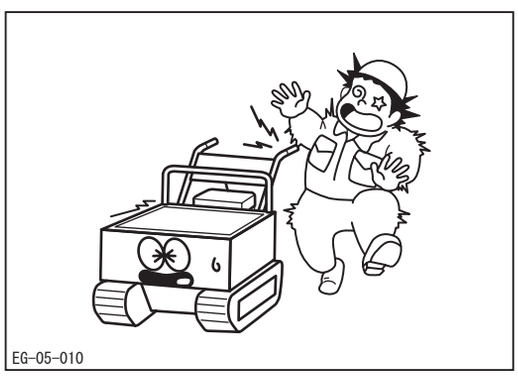


傾斜地での輪止め励行
傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

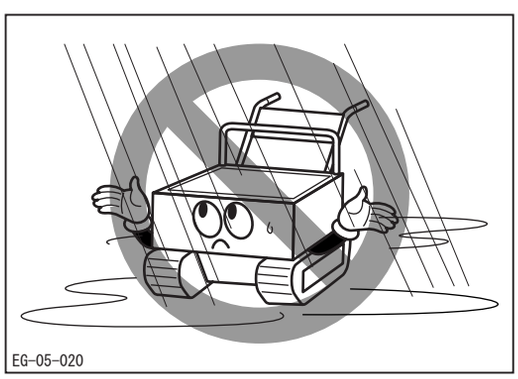
発電機使用時の心得



室内での使用禁止
室内で使用しないでください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。また、建物その他の設備から1m以上離して使用してください。

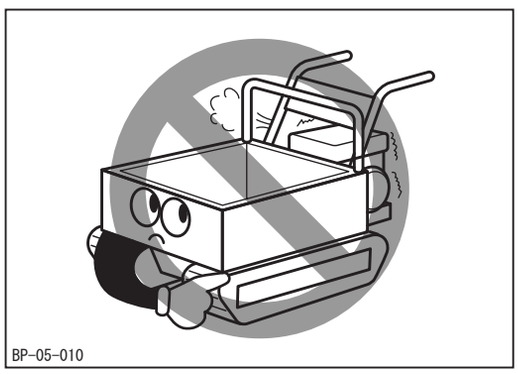


感電に注意
ぬれた手で触ったり、コンセントにピンや針などの金属物を入れたりしないでください。感電のおそれがあります。

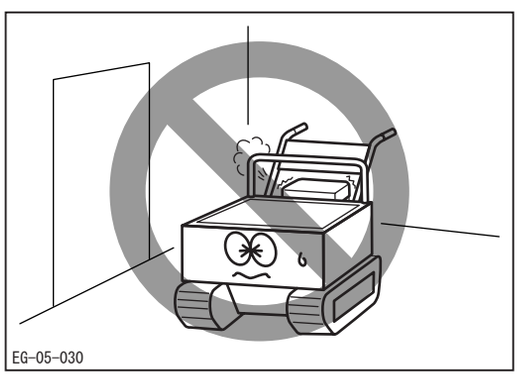


雨中での使用禁止
雨中で使用しないでください。感電のおそれがあります。

整備時の心得

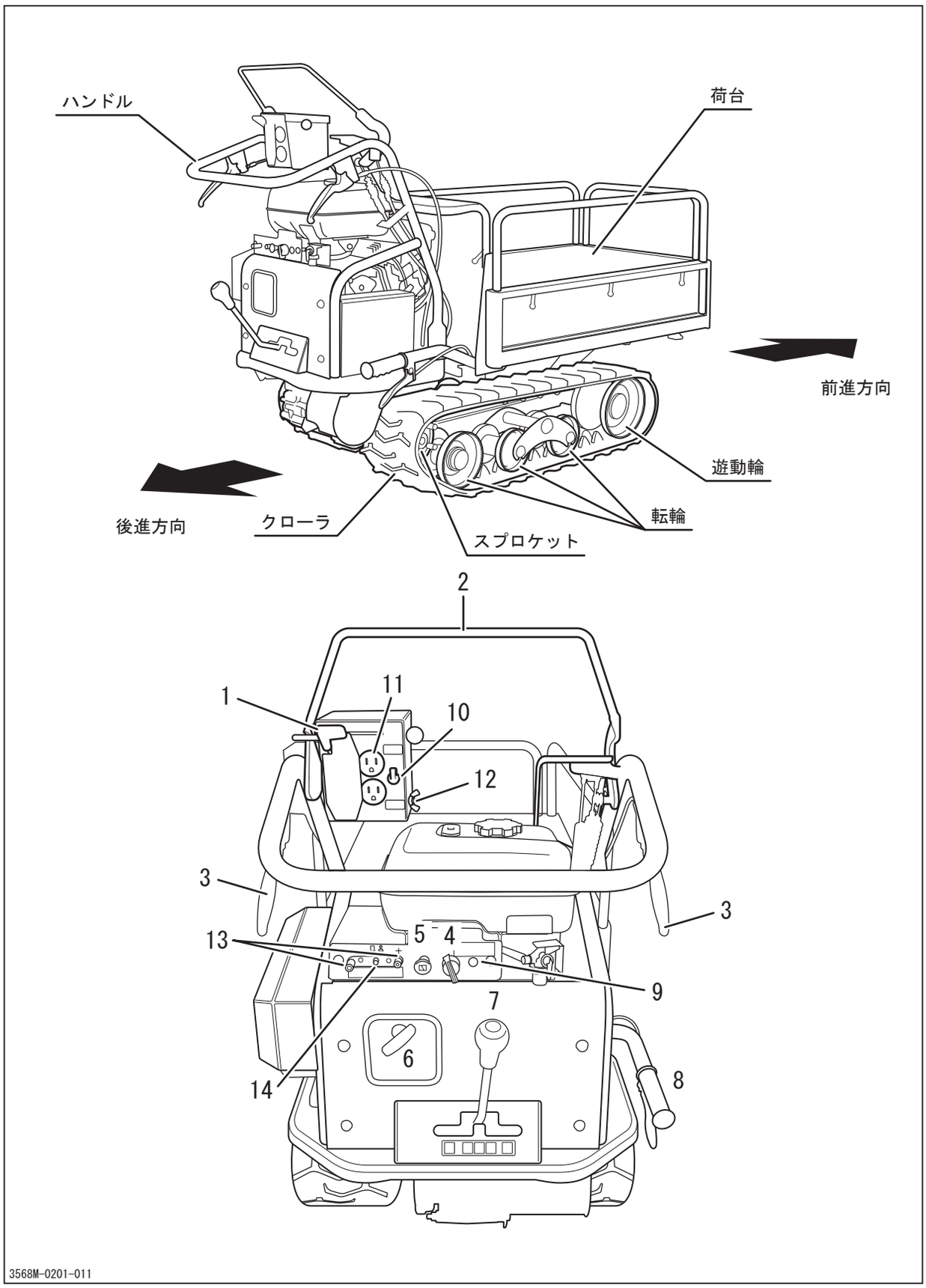


エンジン回転中の整備禁止
エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備を行ってください。



室内でのエンジン運転禁止
室内ではエンジンを運転しないでください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。

各部の名称とはたらき


ハンドル
荷台
前進方向
遊動輪
後進方向
クローラ
転輪
スプロケット
2
1
11
10
12
3
3
13
5
4
9
7
6
8
14
3568M-0201-011

各部の名称とはたらき　2

1　**アクセルレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジン回転数の増減を行います。

2　**走行クラッチレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンからの動力を断続させるときに使用します。

3　**サイドクラッチレバー** ‥‥‥‥‥‥車両を旋回させるときに使用します。

4　**メインスイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動または停止させるときに使用します。

5　**チョークレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動させるときに使用します。チョークバルブの開閉を行います。

6　**スタータノブ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動させるときに使用します。

7　**変速レバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥車両の走行速度を切り替えるときに使用します。

8　**手動ダンプレバー** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥荷台の上昇または下降を行うときに使用します。ダンプレバーを握ると、荷台のロックが解除されます。

9　**エンジンオイル警告ランプ** ‥発電機使用時にエンジンオイルが不足していると点灯します。傾斜地での走行時に一時的に点灯することがありますが、異常ではありません。

10 **交流（ＡＣ）ブレーカー** ‥‥電流が使用可能範囲を超えたとき、または、使用器具に異常があったときに作動し、電流を遮断します。

11 **交流（ＡＣ）コンセント** ‥‥交流の電気を取り出せます。差込プラグは接地型3本足プラグを使用してください。

12 **アース端子** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥アース接地をするときに使用します。発電機使用時はアース端子を使用してアース接地をしてください。

13 **直流（ＤＣ）ターミナル** ‥‥直流の電気を取り出せます。

14 **直流（ＤＣ）ブレーカー** ‥‥電流が使用可能範囲を超えたとき、または、使用器具に異常があったときに作動し、電流を遮断します。

3 製品仕様

本製品の仕様

⚠ 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名称・型式				EG60	
				50Hz	60Hz
機械質量			kg	215	
最大作業能力			kN(kg)	2.45(250)	
機械寸法	全長		mm	1665<1825>	1770
	全幅		mm	650<1005>	830
	全高		mm	1000	
	クローラ接地長		mm	700	
	クローラ中心距離		mm	440	
	最低地上高		mm	90	
	床面高さ		mm	370	
荷箱	形式			サイドフレーム	箱型三方開
	荷箱内側寸法	長さ	mm	950<1110>	1050
		幅	mm	520<900>	745
		高さ	mm	420	200
	ダンプ方式			手動ダンプ	
	ダンプ角度		度	50	
エンジン	名称			ロビン EX17	
	形式			空冷4サイクル単気筒ガソリンエンジン	
	シリンダ(内径×行程)		mm	67×48	
	総排気量		cm^3(cc)	169(169)	
	最大出力		KW(PS)/rpm	4.2(5.7)/4000	
	最大トルク		N・m(kgm)/rpm	11.3(1.15)/2500	
	始動方式			リコイルスタータ式	
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン	
	燃料消費率		g/KW・h(g/PS・h)	367(270)	
	燃料タンク容量		ℓ	6[7]	
	潤滑油容量		ℓ	0.6	
	点火方式			無接点式マグネト点火	
	点火プラグ品番			NGK BR6HS	

名称・型式				EG60	
				50Hz	60Hz
走行性能	走行速度	前進1速	km/h	1.8	2.2
		前進2速	km/h	4.0	4.8
		後進1速	km/h	1.3	1.6
		後進2速	km/h	2.9	3.5
	最小回転半径		m	1.2	
	登坂能力		度	25(空車)	
動力伝達装置	クラッチ形式			ベルトテンション式	
	主変速形式			ギヤスライド	
	操向装置形式			ドグクラッチ・爪ロック式	
	ブレーキ形式			内拡式ブレーキ	
	クローラサイズ			180×31×72	
	トランスミッション油量		ℓ	1.0	
発電機	形式			2極回転界磁形交流発電機	
	相数			単相	
	励磁方式			自己励磁式	
	電圧調整方式			AVR式	
	定格周波数		Hz	50	60
	交流(AC)出力	定格電圧	V	100	
		定格電流	A	21	24
		定格出力	KVA	2.1	2.4
		力率		1.0	
	直流(DC)出力	定格電圧	V	12	
		定格電流	A	8.3	
装備	交流(AC)出力			JISコンセント(15A×2)	
	直流(DC)出力			ターミナル	
	過電流保護装置	交流(AC)出力		ブレーカー	
		直流(DC)出力		ブレーカー	
	オイルセンサ			有	

〈 〉内はサイドフレーム延長時

[ ]内は満タン時

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部　品　名	個　数	備　考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン工具	1	エンジン整備用
3	グリースニップル	1	転輪軸給脂用

運転前の準備

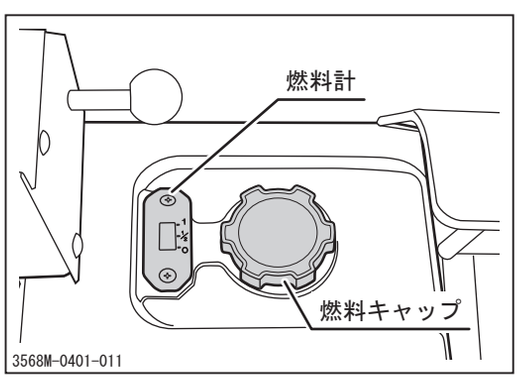
始業点検

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領については**「定期点検表」**（☞29ページ）を参照してください。

燃料の点検と補給

⚠ 警　告

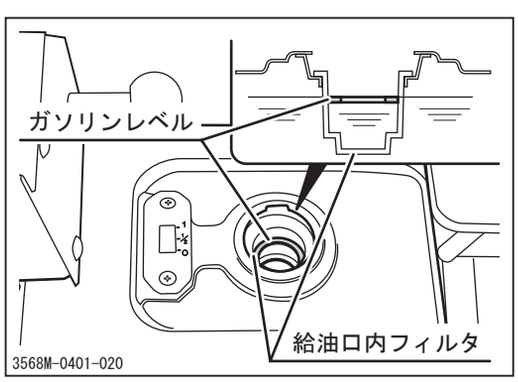
- 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 給油は給油口内フィルタ内面のガソリンレベル（ピンク）以下になるようにし、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。



1. 燃料計を確認し、燃料が不足している場合は燃料を補給します。
2. 燃料キャップを開けます。

アドバイス

- **使用燃料：自動車用無鉛ガソリン**
- **燃料タンク容量：6ℓ**



3. 燃料を補給します。油面が給油口フィルタ内面のガソリンレベル（ピンク）を超えないようにします。
4. 燃料キャップを確実に閉めます。

運転のしかた

始動のしかた

⚠ 警 告

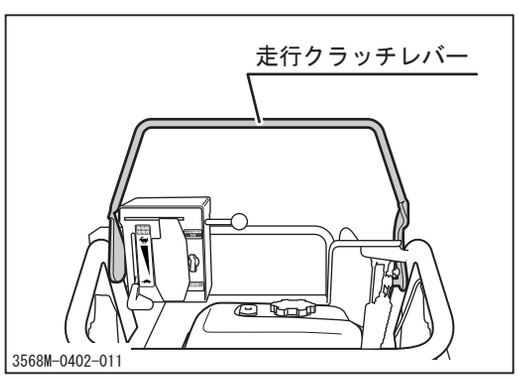
・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。

・エンジンの始動は必ず周囲の安全を確認してから行ってください。

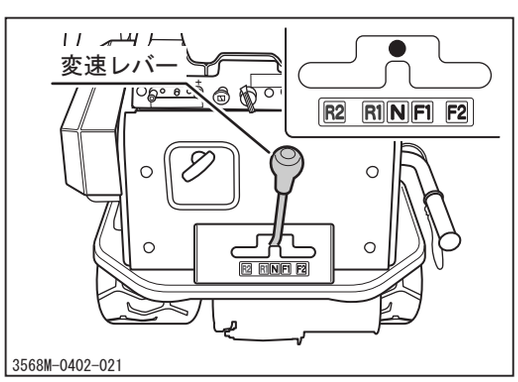
⚠ 注 意

・始動時は使用機器の電源プラグが抜いてあることを確認してください。感電、けがのおそれがあります。

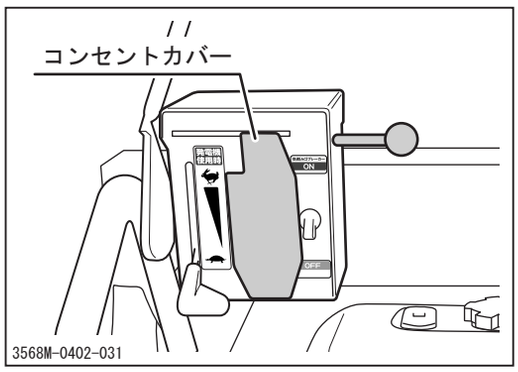
・冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。エンジンが十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンの寿命を短くすることになります。



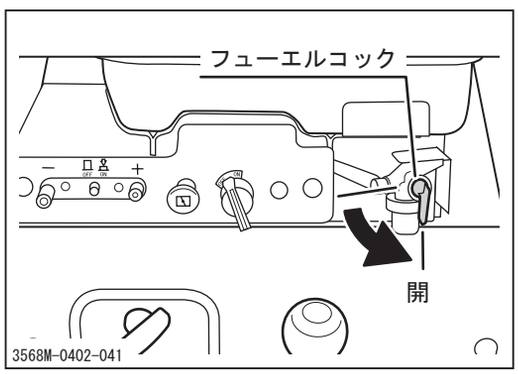
1. 走行クラッチレバーが「停車」にあることを確認します。



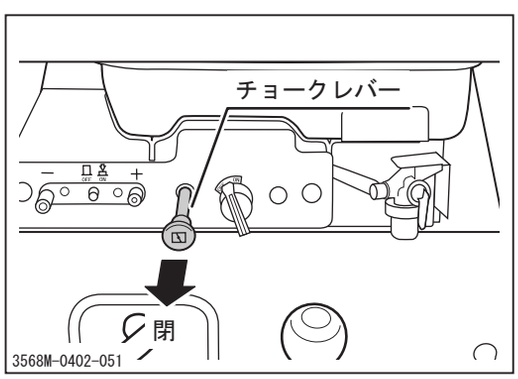
2. 変速レバーが「N（ニュートラル）」にあることを確認します。



3. コンセントカバーが閉まっていることを確認します。



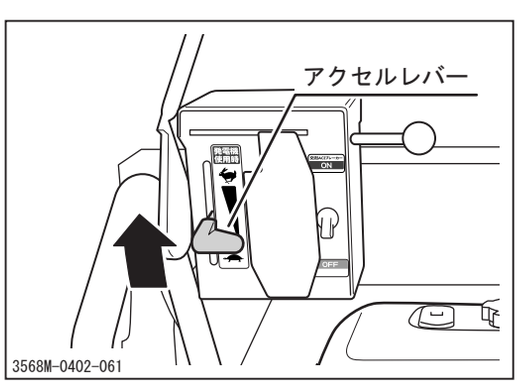
4. フューエルコックを「開」にします。



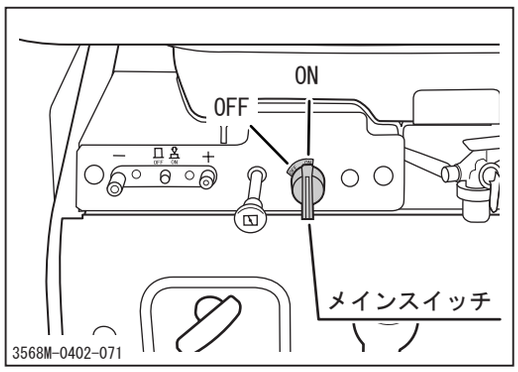
5. チョークレバーを「閉」にします。

アドバイス

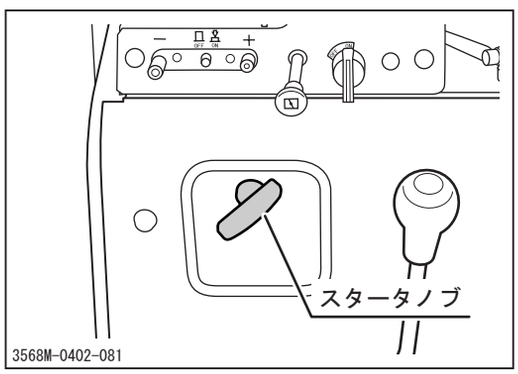
・エンジンが暖まっている場合はこの操作は必要ありません。



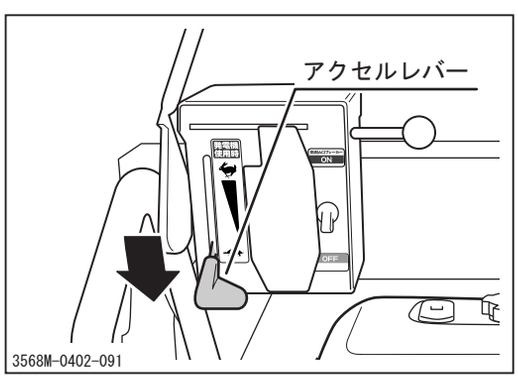
6. アクセルレバーを「 （高速）」側に少し動かします。



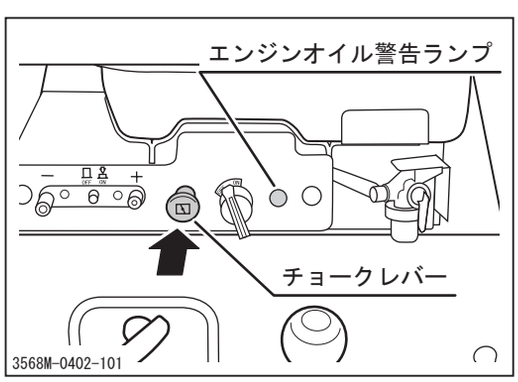
7. メインスイッチを「ＯＮ」にします。



8. スタータノブを勢いよく引き、エンジンを始動します。スタータノブは手から離さずゆっくりと戻してください。



9. エンジン始動後、アクセルレバーを「🐢（低速）」にします。



10. チョークレバーを戻します。
11. エンジンオイル警告ランプが点灯していないことを確認します。
12. 約5分間、無負荷で暖機運転をします。

アドバイス

・購入後、最初の一週間（約40～50時間）はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

運転のしかた

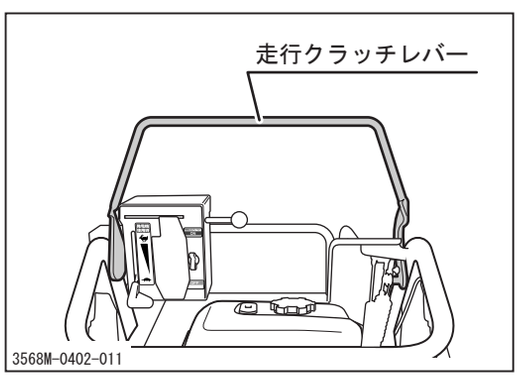
⚠ 警　告

・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

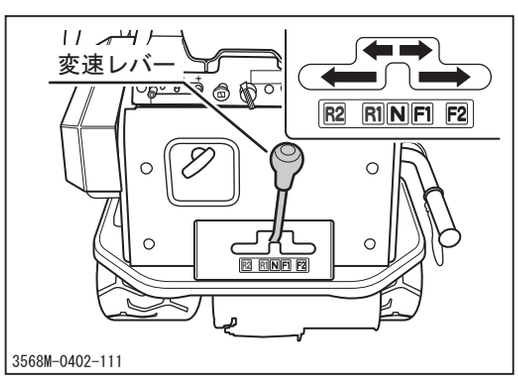
・発進時は必ず周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進させてください。

・旋回時は必ず周囲の安全を確認してください。

・急発進、急加速、急旋回を行わないでください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。



1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 走行クラッチレバーが「停車」にあることを確認します。

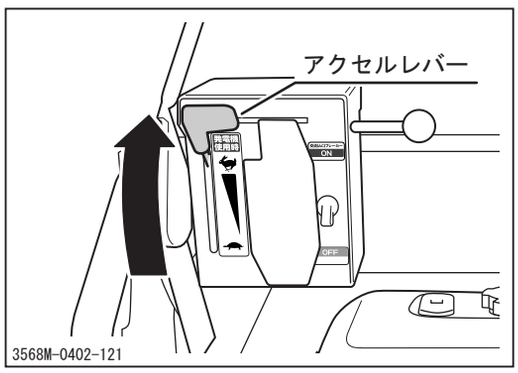


3. 変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

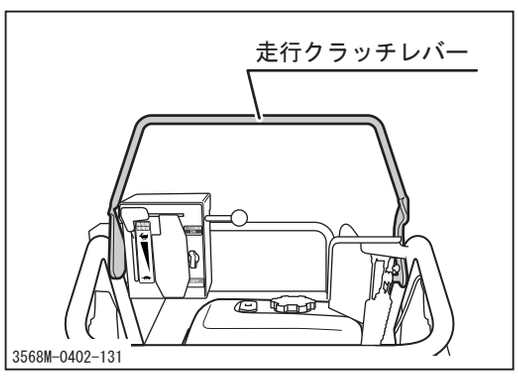
アドバイス

・各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞10ページ）を参照してください。

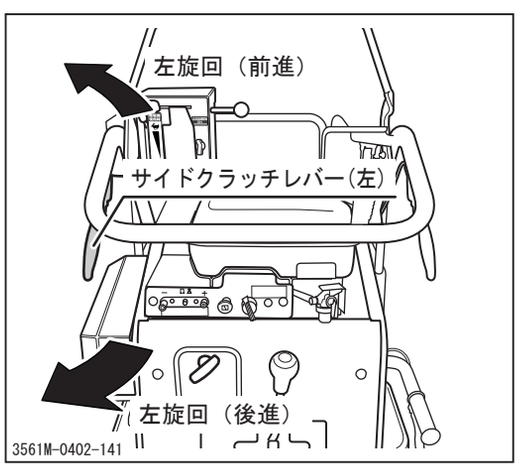
・変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを「走行」側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。



4. アクセルレバーを「 （高速）」側に動かし、エンジンの回転数を上げます。

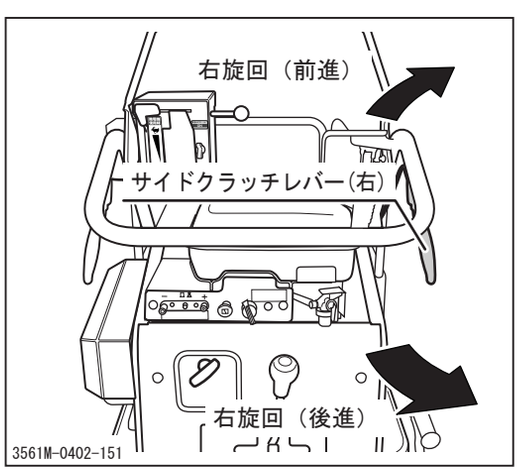


5. 走行クラッチレバーを「走行」にし、車両を発進させます。



旋回する場合

6. 左旋回したい場合は左側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。



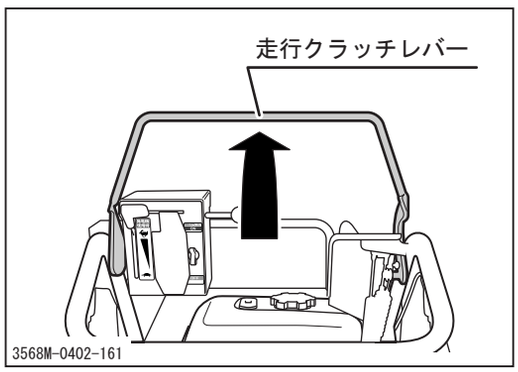
7. 右旋回したい場合は右側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。

停止のしかた

⚠ 警 告

・急停止を行わないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。

・停止の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停車しないでください。



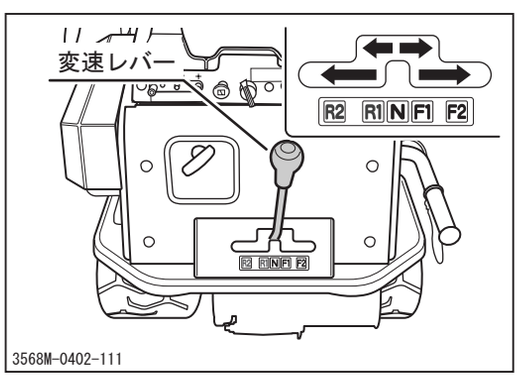
1. アクセルレバーを「低速」側に動かし、車両を減速させます。
2. 走行クラッチレバーを「停車」にし、車両を停止させます。

変速のしかた

⚠ 警 告

・変速操作は必ず車両を停止させてから行ってください。

・変速操作は確実に行ってください。変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあります。



1. 車両を停止させます。
2. 変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

アドバイス

・各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞10ページ）を参照してください。

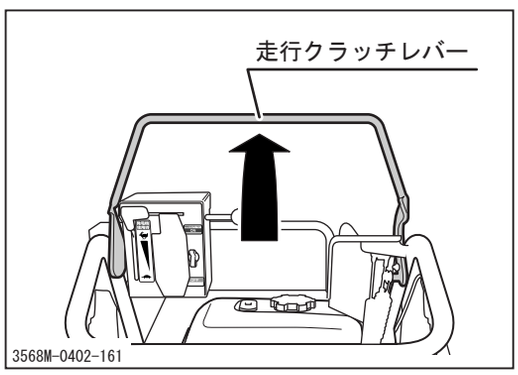
・変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを「走行」側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。

駐車のしかた

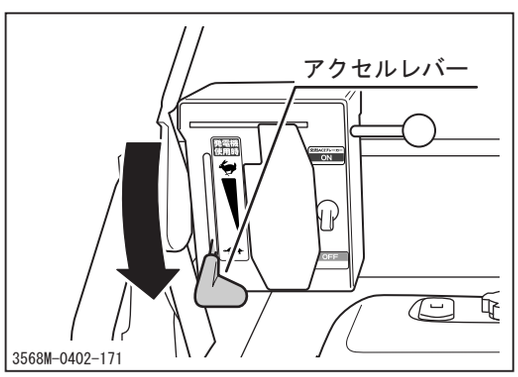
⚠ 警 告

・駐車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。

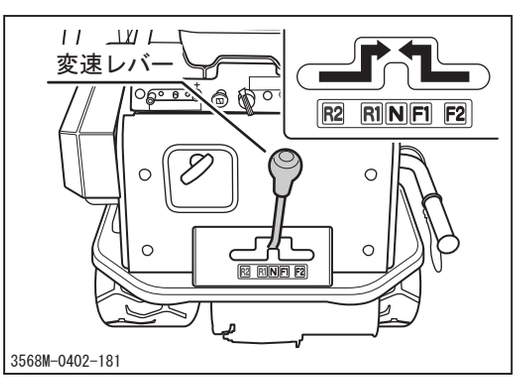
・傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は輪止めをしてください。



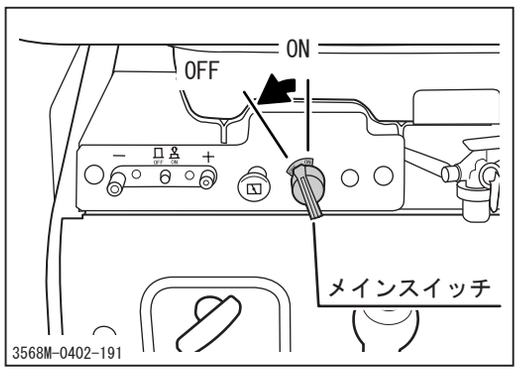
1. 走行クラッチレバーを「停車」にし、車両を停止させます。



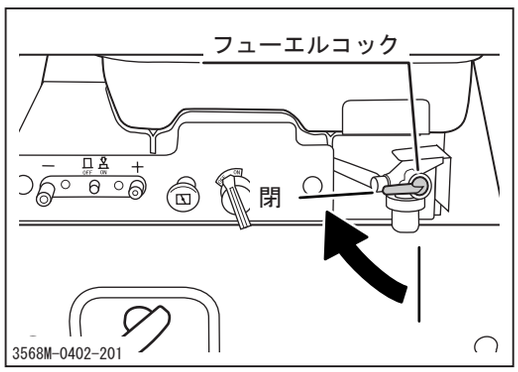
2. アクセルレバーを「🐢（低速）」にし、エンジンの回転数を下げます。



3. 変速レバーを「N（ニュートラル）」にします。



4. メインスイッチを「ＯＦＦ」にし、エンジンを停止させます。



5. フューエルコックを「閉」にします。

作業のしかた

ダンプ操作

⚠ 警 告

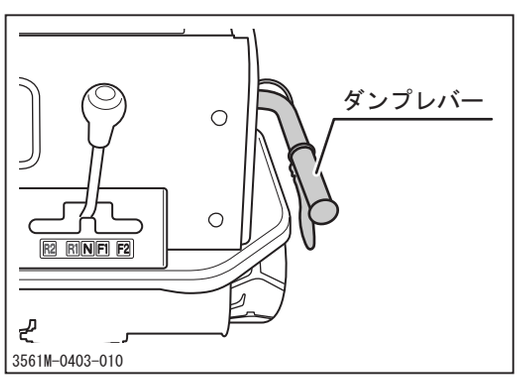
・ダンプ操作時は必ず周囲の安全を確認してください。

・傾斜地でのダンプ操作は行わないでください。やむなく傾斜地でダンプ操作を行う場合は、車体が水平になるようにしてください。車両が転倒するおそれがあります。

⚠ 注 意

・積荷が前方に偏っている状態では、ダンプをさせないでください。荷台のロックを解除すると同時に急激にダンプするおそれがあります。

・積載したまま荷台を下降させる場合は、ゆっくりと下降させてください。



荷台を上昇させる場合

1. ダンプレバーを握り、荷台のロックを解除します。
2. 荷台を上昇させます。

荷台を下降させる場合

3. 荷台を下降させます。
4. ダンプレバーを握らずに荷台を持ち上げ、荷台が確実に固定されていることを確認します。

発電機の使いかた

⚠ 警 告

・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。

・ぬれた手で使用しないでください。感電のおそれがあります。

・コンセントにピンや針等の金属物を差し込まないでください。感電のおそれがあります。

⚠ 注 意

・雨中で使用しないでください。感電のおそれがあります。

・溶接機として使用しないでください。感電のおそれがあります。

・屋内配線に接続しないでください。感電、火災のおそれがあります。

・子供に使用させないでください。感電、けがのおそれがあります。

・始動時は使用機器の電源プラグが抜いてあることを確認してください。感電、けがのおそれがあります。

・発電機使用時はアクセルレバーを「発電機使用時」にしてください。

・走行中に発電機を使用しないでください。発電機が故障するおそれがあります。

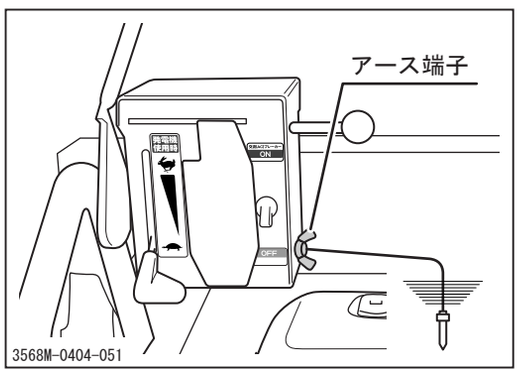
・発電機使用時にエンジンオイル警告ランプが点灯した場合は直ちにエンジンを停止してください。エンジンが故障する恐れがあります。

・交流と直流を同時に取り出さないでください。発電機が故障するおそれがあります。

・直流を取り出す時は極性を間違えないでください。発電機、使用機器が故障するおそれがあります。

・直流出力はバッテリ充電専用です。それ以外の用途には使用しないでください。

交流（ＡＣ）の取り出しかた

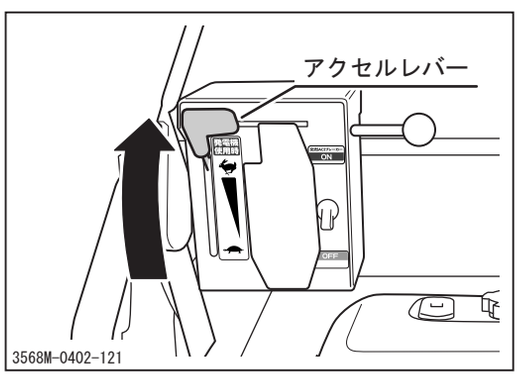


取り出しかた

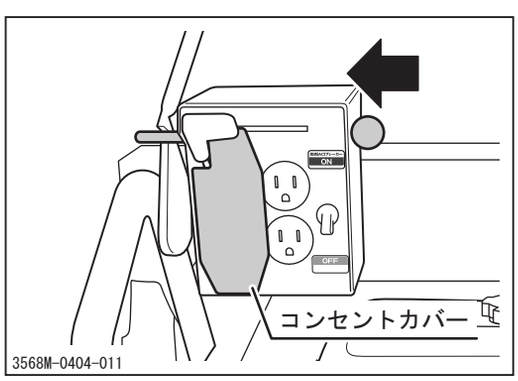
1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. アース端子を使用し、アースをします。

アドバイス

・使用機器をアースした場合は、本製品も必ずアースをしてください。



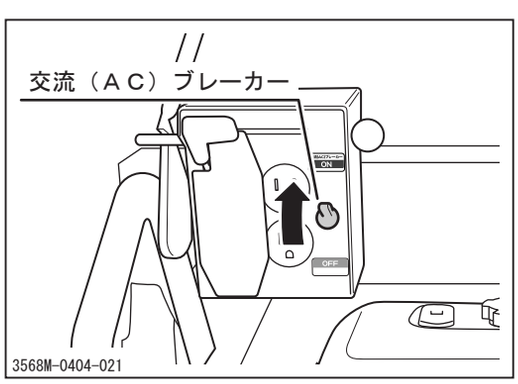
3. **「始動のしかた」**（☞14ページ）の手順に従い、エンジンを始動します。
4. アクセルレバーを「発電機使用時」にし、エンジンの回転数を上げます。



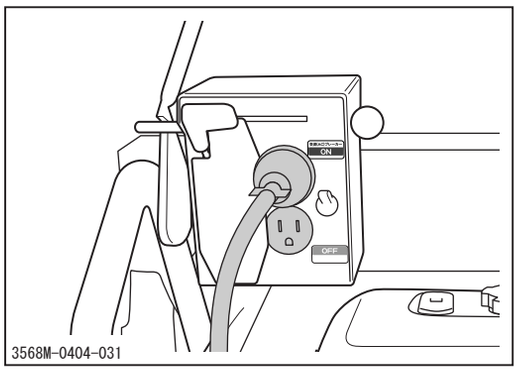
5. コンセントカバーを開けます。

アドバイス

・コンセントカバーはアクセルレバーを「発電機使用時」にしないと開けられません。



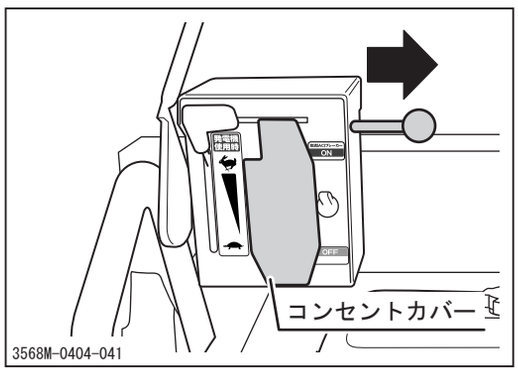
6. 交流（ＡＣ）ブレーカーを「ＯＮ」にします。



7. 使用機器のスイッチが切れていることを確認し、使用機器の電源プラグを交流コンセントに接続します。
8. 使用機器のスイッチを入れて使用します。

アドバイス

・使用機器の取り扱いは使用機器の取扱説明書の指示に従ってください。



停止のしかた

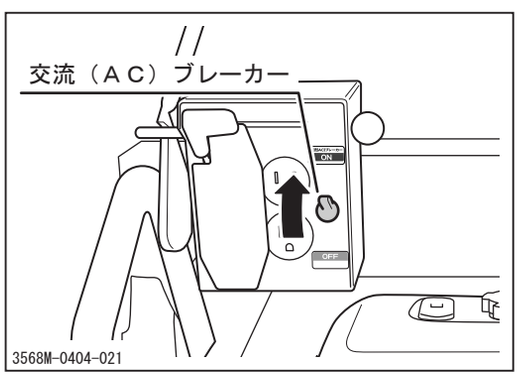
1. 使用機器のスイッチを切り、電源プラグを取り外します。
2. コンセントカバーを閉めます。
3. **「駐車のしかた」**（☞20ページ）の手順に従い、エンジンを停止します。

交流（ＡＣ）ブレーカー機能

⚠ 注 意

・ブレーカーをリセットする前に、過電流の原因を取り除いてください。過電流の原因を取り除かずにリセットしても、再度ブレーカーが作動します。

本製品には、電流が使用可能範囲を超えた時、または使用器具に異常があった時に電流を遮断するブレーカー機能がついています。ブレーカーが作動した時は、過電流の原因を取り除き、ブレーカーをリセットします。



1. 過負荷の原因を取り除きます。
2. 交流(ＡＣ)ブレーカーを「ＯＮ」にします。

機器の使用可能範囲

電気製品には、通常、電圧・周波数および消費電力等が表示されています。電気製品を使う場合、この表示されている消費電力がその電気製品を運転するために必要な電力となります。しかし、発電機を電源として電気製品を使用する場合は、さらにその電気製品の力率や起動電流を考慮して発電機の出力（必要発電量）を選択しなくてはなりません。
下記に、電気機器の消費電力を参考に示しましたので、使用する電気機器および発電機を選ぶ目安としてください。

家庭機器		
必要発電量	電気機器	消費電力（W）
消費電力の１倍	炊飯器	300 ～ 1000
	コーヒーメーカー	450
	ホットプレート	800 ～ 1400
	カラーテレビ	100
	ヘアドライヤー	1200
消費電力の 1.2 ～ 2 倍	エアコン	1200
	電子レンジ	800 ～ 1200
	芝刈機	400
消費電力の 3 ～ 5 倍	冷蔵庫	100 ～ 260
	掃除機	1100
	洗濯機	500
	クーラー	600
	深井戸ポンプ	600
	水銀灯	40 ～ 400

電気工具・建築機械他		
必要発電量	電気機器	消費電力（W）
消費電力の１倍	ハンダゴテ	300 ～ 1000
	しらす用照明	600
消費電力の 1.2 ～ 2 倍	ドリル	350 ～ 600
	ディスクグラインダー	500 ～ 1200
	電気ハンマー	100
	チェーンソー	1200
	インパクトレンチ	1200
	バイブレーター	800 ～ 1200
	シイタケ用ドリル	400
消費電力の 3 ～ 5 倍	エアーコンプレッサー	100 ～ 260
	ウインチ	1100
	水中ポンプ	500

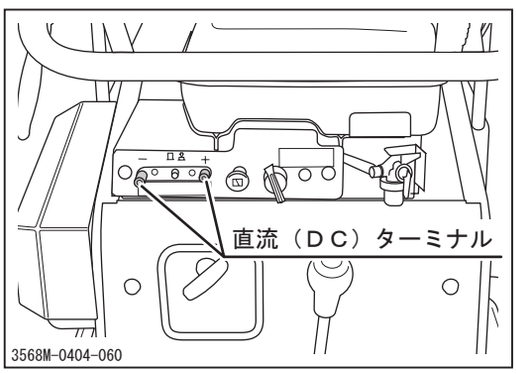
電圧降下について

断面積 mm^2	許容電流 A	電線 30m 延長時の電圧降下					
		5A	10A	15A	20A	25A	30A
1.25	12	4.5V	8.9V	*	*	*	*
2.0	17	2.8V	5.7V	8.6V	*	*	*
3.5	23	1.6V	3.1V	4.7V	6.2V	*	*
5.5	35	1.0V	2.0V	3.0V	4.0V	5.0V	6.0V

アドバイス

・コードリールを使用する場合は、コードリールは巻いたまま使用しないでください。巻いたまま使用するとさらに電圧降下します。コードリールを全部引き延ばして使用してください。コードリールは電流容量を確認の上、機器容量に適したものをご使用ください。

直流（ＤＣ）の取り出しかた

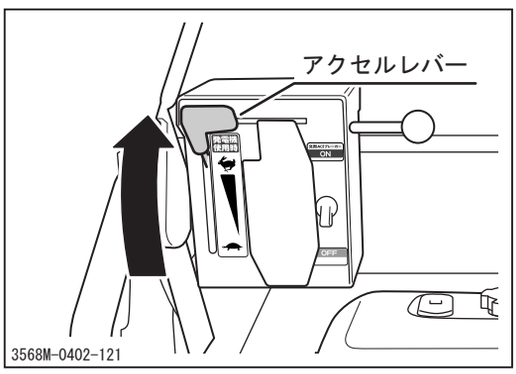


取り出しかた

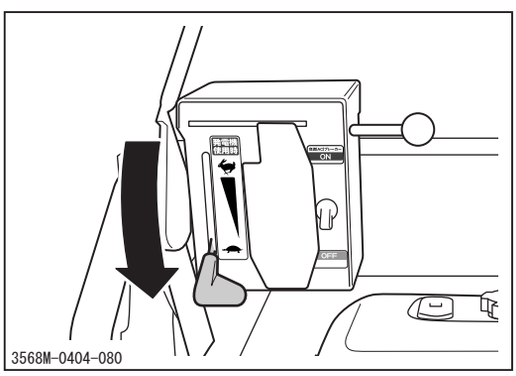
1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. エンジンが停止していることを確認し、入力線を直流（ＤＣ）ターミナルに接続します。

アドバイス

・入力線は(＋)を先に接続してください。



3. アクセルレバーを「発電機使用時」にし、エンジンの回転数を上げます。



停止のしかた

1. **「駐車のしかた」**（☞20ページ）の手順に従い、エンジンを停止します。
2. 入力線を取り外します。

アドバイス

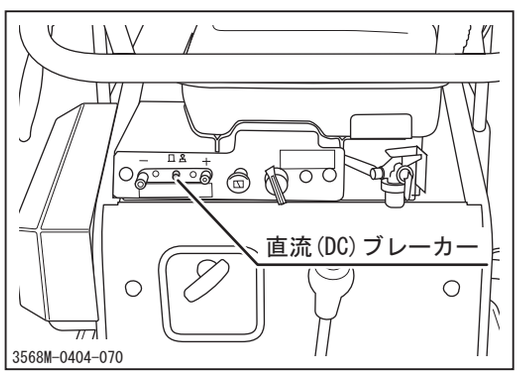
・入力線は(－)を先に取り外してください。

直流（ＤＣ）ブレーカー機能

⚠ 注　意

・ブレーカーをリセットする前に、過電流の原因を取り除いてください。過電流の原因を取り除かずにリセットしても、再度ブレーカーが作動します。

本製品には、電流が使用可能範囲を超えた時、または使用器具に異常があった時に電流を遮断するブレーカー機能がついています。ブレーカーが作動した時は、過電流の原因を取り除き、ブレーカーをリセットします。



1. 過負荷の原因を取り除きます。
2. 直流（ＤＣ）ブレーカーをカチッと音がするまで押します。

定期点検表

⚠ 注　意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

エンジン・発電機の点検

・修正・分解・清掃時には、所定時間に満たない部品でも使用状態により修正または交換を行い、標準性能の維持をはかってください。

・点検項目表の◎印の項目については販売店または整備工場へ依頼してください。

運転時間 / 項目	8時間毎（毎日）	50時間毎（毎週）	200時間毎（毎月）	500時間毎	1000時間毎
各部の清掃および締付点検	○				
エンジンオイルの点検・補給	○（毎日規定量最大まで補給する）				
エンジンオイルの交換	（初回20時間目）	○以下100時間毎			
点火プラグの清掃		○			
点火プラグの間隙調整			○		
点火プラグの交換				○	
エアクリーナの清掃		○			
クリーナエレメントの交換			○		
キャブレタの清掃				◎	
シリンダヘッドのカーボン除去				◎	
フューエルフィルタの清掃			○		
バルブクリアランスの点検・調整				◎	
バルブおよびシート面の点検				◎	
オーバーホール					◎
ＡＣコンセントの点検	○				
ＤＣターミナルの点検		○			
ブレーカーの点検	○				
エンジンスイッチの点検	○				
出力ランプの点検	○				
ロータの点検					◎
ステータの点検					◎
エンジンマウントの交換					◎
ブラシの交換					◎

車両の点検

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
動力伝達装置	走行クラッチ	アイドリング状態でクラッチを切った時に異音がなく、クラッチが完全に切れること		○	○	
		クラッチを徐々に接続した時に滑りがなく、接続が円滑であること		○	○	
	ロッド リンク ワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	
	Vベルト	ベルトの張りが基準値以内であること		○	○	点検/調整：☞42ページ
		Vベルトに著しい摩耗または損傷がないこと		○	○	
	トランスミッション	走行時にギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	交換：☞41ページ
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
走行装置	サイドクラッチ	操作時に異音がなく確実に作動すること	○	○	○	
		レバーの遊びおよび引きしろが適正であること	○	○	○	点検/調整：☞44ページ
		ワイヤの損傷および接続部のガタならびに各ピンの錆び付きがないこと		○	○	
	転輪 遊動輪 スプロケット	亀裂、変形および著しい摩耗がないこと	○	○	○	
		軸部にガタ、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		軸部周辺より油漏れがないこと		○	○	
	クローラ	著しい欠け、劣化または摩耗がないこと	○	○	○	
		緩みまたは張り過ぎがないこと	○	○	○	点検/調整：☞40ページ
		張りボルトに変形、腐食がないこと	○	○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
制動装置	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	調整：☞43ページ
		ブレーキ作動時に勾配で停止状態を保持できること		○	○	
	ロッド リンク ワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	
車体・安全装置等	車枠および車体	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	カバー	亀裂、変形がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台および荷扉	荷台の上下が円滑におこなえること		○	○	
		ドアの開閉またはロックに異常がないこと		○	○	
		亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台落下防止棒	荷台落下防止棒に変形がないこと		○	○	
	マーク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	

給油・給水一覧表

項　　目	補　給（交　換）時　期	推　　奨　　品	容　量
燃　　料	随時	自動車用無鉛ガソリン	6ℓ
エンジンオイル	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回：20時間 2回目以降：100時間毎	自動車用エンジンオイル API分類　SE級以上 SAE分類　10W-30または10W-40	0.6ℓ
トランスミッションオイル	交換　初回：50時間 2回目以降：500時間または1年毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	1.0ℓ

給脂一覧表

給　脂　箇　所	補　給　時　期	推　　奨　　品	容　量
転　輪　軸	半年毎	シャーシグリース	-

消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注　意
・消耗部品の交換時は必ず当社指定部品を使用してください。

項　　目	部品番号	交換インターバル	個数
エンジン			
エアクリーナエレメント	277-32661-17	200時間毎	1
点火プラグ	065-01401-50	500時間毎	1
走行装置			
Vベルト（LA32）	08511600032	不具合があれば交換	1
クローラ	35442022000	不具合があれば交換	2
ブレーキシュー	79531213100	不具合があれば交換	1
ワイヤ（走行クラッチ）	35583155000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（駐車ブレーキ）	35613165000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（サイドクラッチレバー左右）	35443006000	不具合があれば交換	2
電装品			
コンセント	388-85002-01	不具合があれば交換	1
ブレーカー	32B-43134-01	不具合があれば交換	1

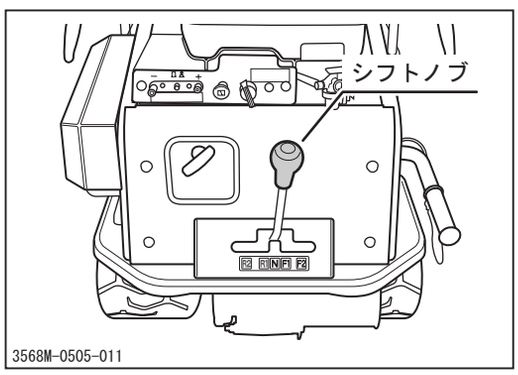
カバーの取り外しかた・取り付けかた

⚠ 注 意

・カバーの取り外し・取り付け時に手や指をはさまないように十分注意してください。

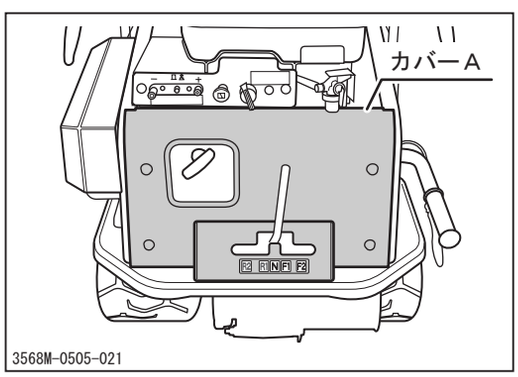
・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

カバーA



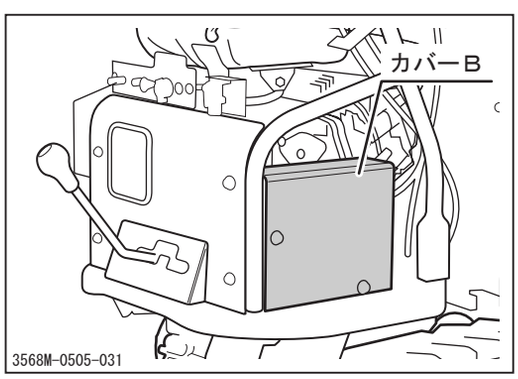
取り外し

1. シフトノブを引き抜きます。



2. ボルト（4本）を取り外し、カバーAを取り外します。

カバーB



2. ボルト（2本）を取り外し、カバーBを取り外します。

エンジン

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止してください。

・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

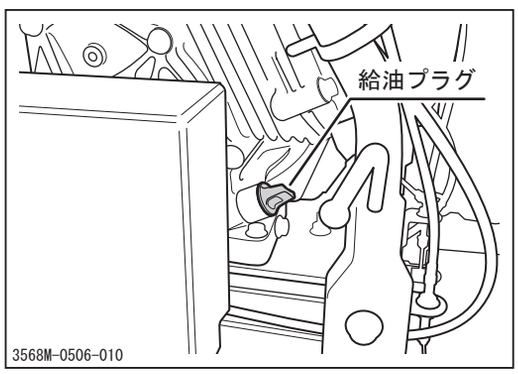
エンジンオイルの点検・補給・交換

⚠ 注　意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

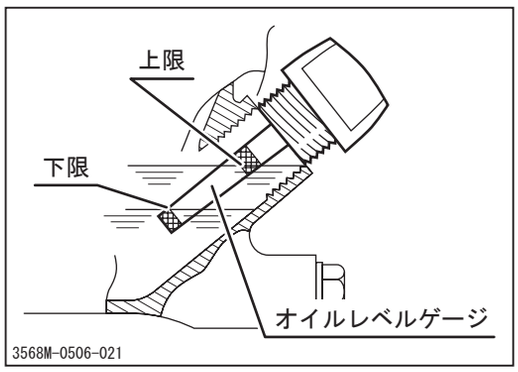
☝アドバイス

・オイル量の点検はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
・指定オイル：☞32ページ
・オイル量：☞32ページ

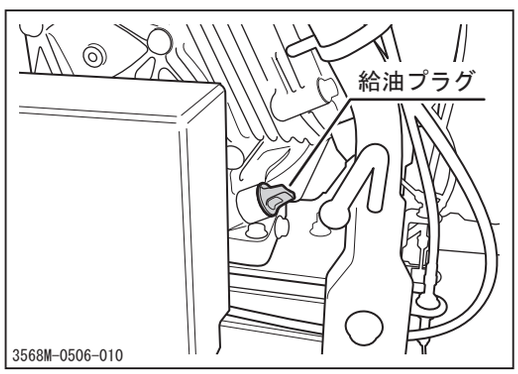


点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. 給油プラグを取り外し、オイルを拭き取ります。

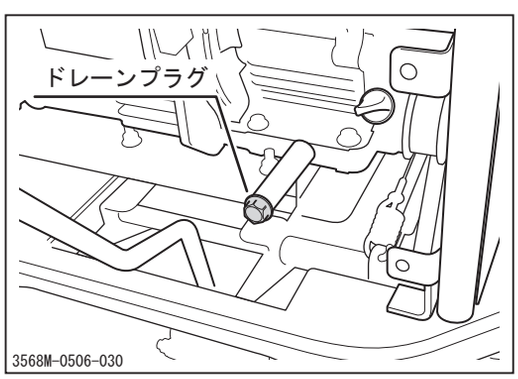


3. 給油キャップを給油口にねじ込まずに差し込み、再び引き抜きます。
4. オイル量を目視点検し、レベルゲージの「下限」より少ない場合は補給します。
5. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。
6. 給油プラグを取り付けます。



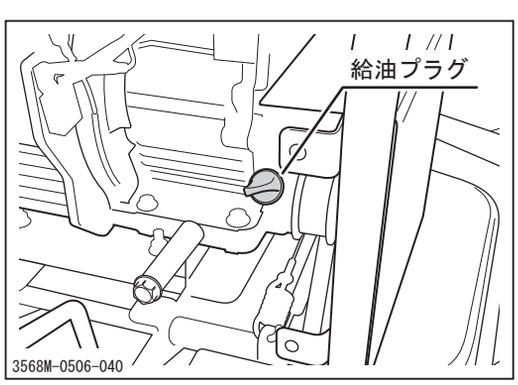
補給

1. 給油プラグを取り外します。
2. 給油口より指定のオイルを補給します。
3. オイル量を点検し、レベルゲージの「上限」と「下限」の間にあることを確認します。
4. 給油プラグを取り付けます。



交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. カバーAを取り外します。 (☞34ページ)
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。



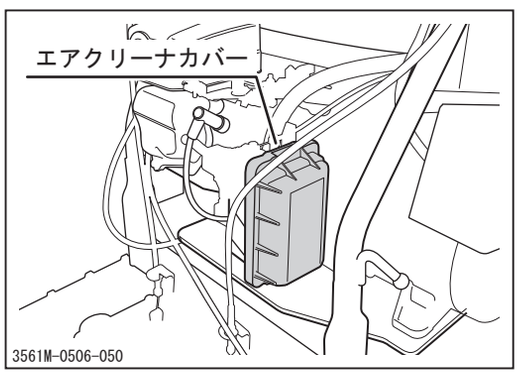
5. 給油プラグを取り外します。
6. 給油口より指定のオイルを補給します。
7. オイル量を点検し、レベルゲージの「上限」と「下限」の間にあることを確認します。
8. 給油プラグを取り付けます。
9. カバーAを取り付けます。

エアクリーナの清掃・交換

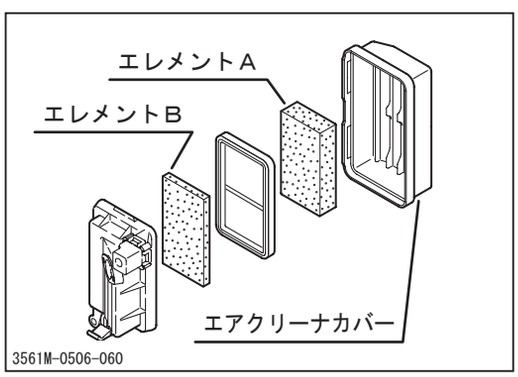
⚠ 注　意

・エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こすため、定期的に清掃するように心がけてください。

・エレメントに穴が開いている場合は、すぐに新品と交換してください。



1. エアクリーナカバーを取り外します。



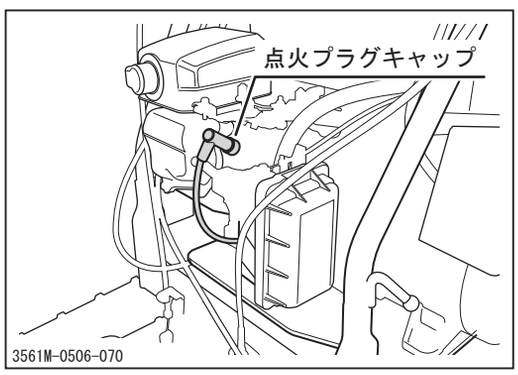
2. エレメントを取り外します。
3. 取り外したエレメントをきれいな白灯油で洗浄します。
4. エレメントAを白灯油3：エンジンオイル1の割合の混合油に浸し、固く絞ります。
5. エアクリーナエレメントを取り付け、エアクリーナカバーを取り付けます。

点火プラグの点検・清掃・調整・交換

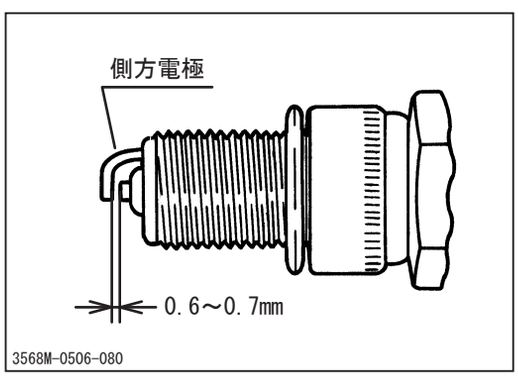
⚠ 注 意

・点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。

・点火プラグに破損がある場合は、すぐに新品と交換してください。



1. 点火プラグキャップ、点火プラグを取り外します。



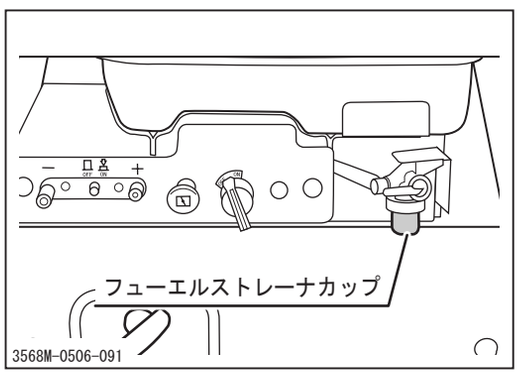
2. 点火プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナまたはワイヤブラシで清掃します。
3. 電極間隙が0.6～0.7㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合は側方電極をつめて調整します。

フューエルストレーナの点検・清掃

⚠ 警　告

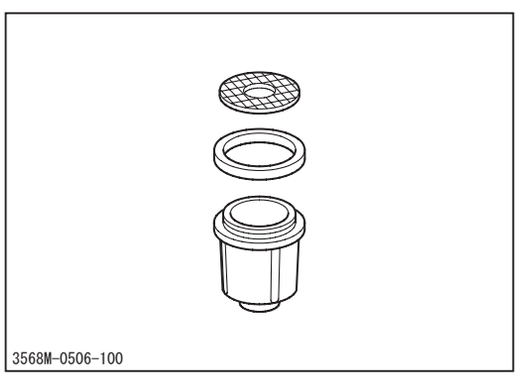
・燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。

・燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。



点検

1. フューエルストレーナカップ内に水やゴミがたまっていないか点検します。たまっている場合は清掃します。



清掃

1. フューエルコックを閉じ、フューエルストレーナカップを取り外します。
2. フューエルストレーナカップ内の水やゴミを捨て、きれいな白灯油で洗浄します。
3. ガソリン漏れのないように確実に取り付けます。

走行装置

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

クローラの点検・調整

⚠ 警　告

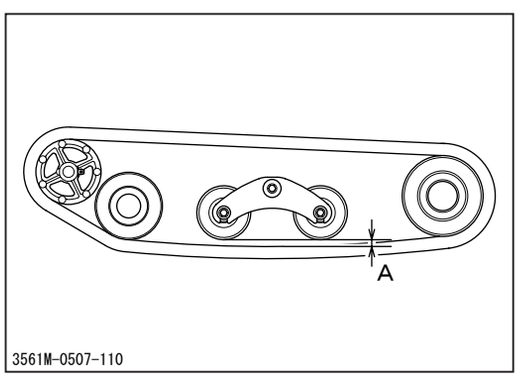
・作業時はジャッキが外れないように確実に固定してください

⚠ 注　意

・クローラは必ず適正な張りで使用してください。脱輪したり、クローラの寿命が短くなったりするおそれがあります。

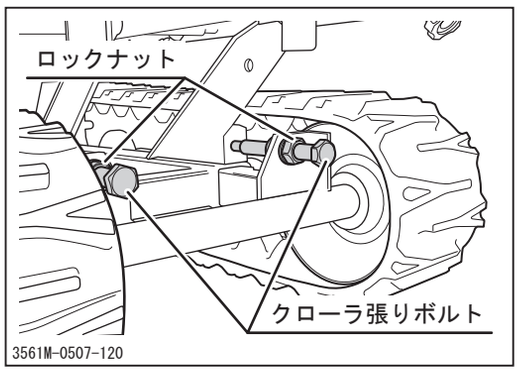
☝アドバイス

・クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが発生しますので、定期的に点検・調整を行ってください。



点検

1. 車両をジャッキアップし、地面と平行になるように浮かせます。
2. クローラと転輪の隙間Ａが10～15㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合には調整します。
3. 車両を降ろします。



調整

1. 車両をジャッキアップし、地面と平行になるように浮かせます。
2. ロックナットを緩めます。
3. クローラと転輪の隙間Aが10～15㎜になるようにクローラ張りボルトで調整します。
4. ロックナットを確実に締め付けます。
5. 車両を降ろします。

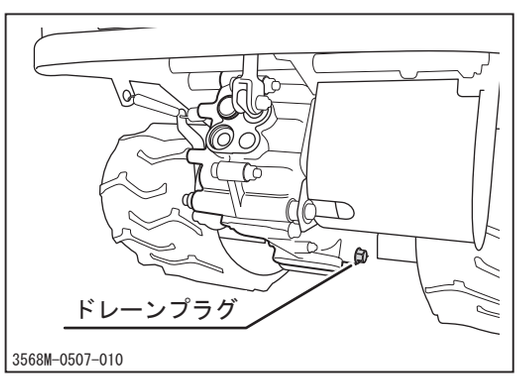
トランスミッションオイルの交換

⚠ 注　意

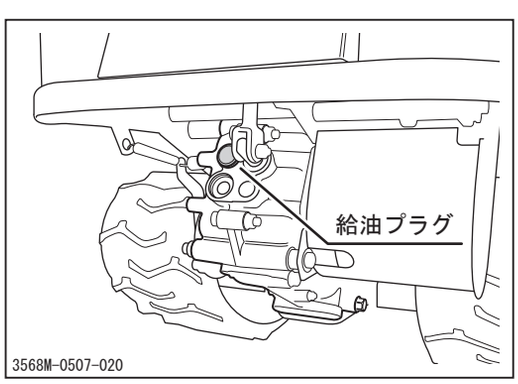
・オイルの補給がおろそかになると、トランスミッション故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

アドバイス

・指定オイル：☞32ページ
・オイル量：☞32ページ



1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。

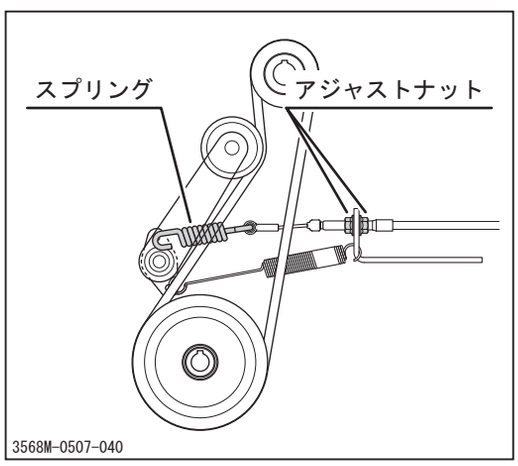


5. 給油プラグを取り外します。
6. 給油口より指定のオイルを補給します。
7. 給油プラグを取り付けます。

Ｖベルトの点検・調整

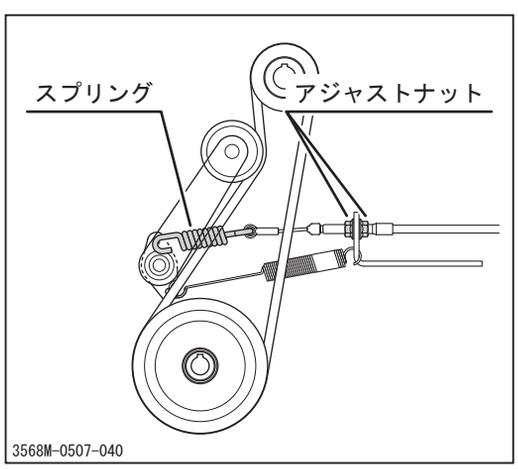
⚠ 注　意

・ベルトは必ず適正な張りで使用してください。ベルトの寿命が短くなるおそれがあります。



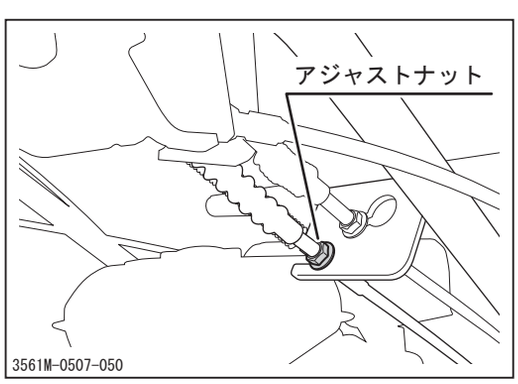
点検

1. カバーＢを取り外します。（☞34ページ）
2. クラッチレバーを「走行」の位置に入れます。
3. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングの伸びが1～2㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合には調整します。
4. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
5. カバーＢを取り付けます。



調整（テンショーンプーリ側）

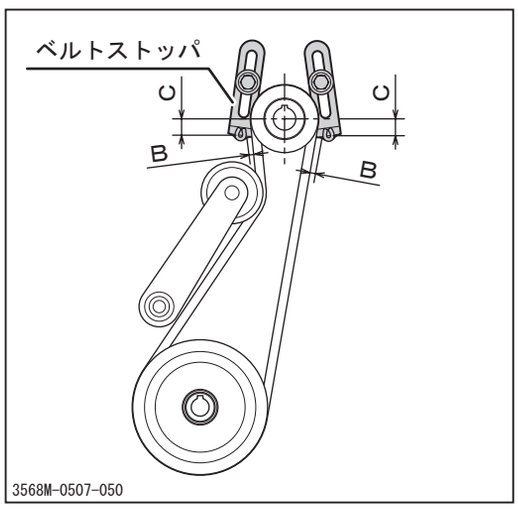
1. カバーＢを取り外します。（☞34ページ）
2. スプリングの伸びが1～2㎜になるようにアジャストナットで調整します。
3. カバーＢを取り付けます。



調整（レバー側）

1. カバーＢを取り外します。（☞34ページ）
2. スプリングの伸びが1～2㎜になるようにアジャストナットで調整します。
3. カバーＢを取り付けます。

ベルトストッパの調整



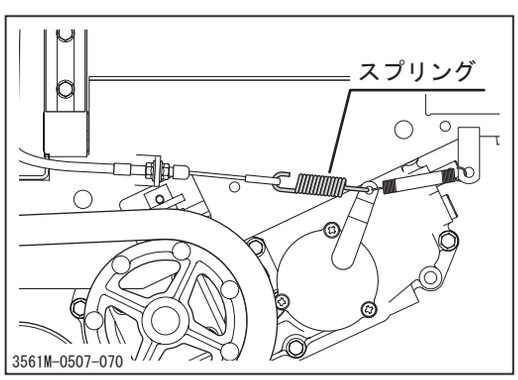
調整

1. カバーＢを取り外します。（☞34ページ）
2. 走行クラッチレバーを「走行」の位置に入れます。
3. 間隔Ｂが約5㎜、距離Ｃが約15㎜となるようにベルトストッパの位置を調整します。
4. カバーＢを取り付けます。

ブレーキの点検・調整

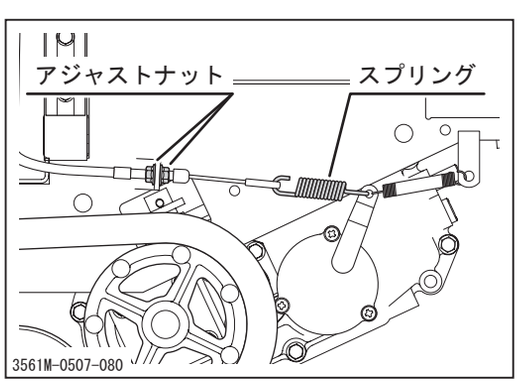
⚠ 警　告

・ブレーキの効きが少しでも甘くなったらすぐに調整を行ってください。



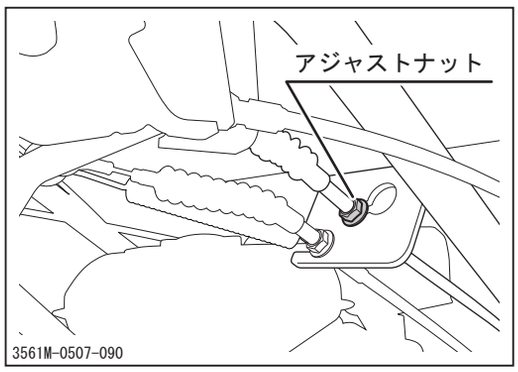
点検

1. クラッチレバーを「停車」の位置に入れます。
2. スプリングの伸びが2～4㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合には調整します。



調整（ブレーキ側）

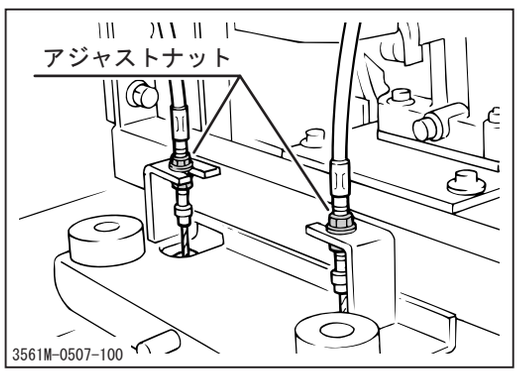
1. スプリングの伸びが2～4㎜になるようにアジャストナットで調整します。



調整（レバー側）

1. スプリングの伸びが2～4mmになるようにアジャストナットで調整します。

サイドクラッチの調整



1. 荷台を上昇させます。 (☞22ページ)
2. サイドクラッチレバーの遊びが1～5mmになるようにアジャストナットで調整します。
3. 荷台を下降させます。

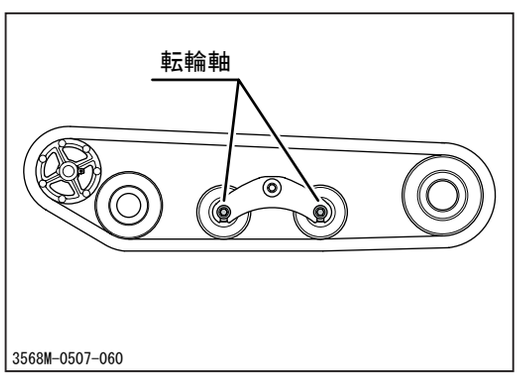
給脂

⚠ 注　意

・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。

アドバイス

・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。
・指定グリース：☞32ページ



1. 転輪軸外側のボルトを取り外します。
2. 転輪軸に付属のグリースニップルを取り付けます。
3. 市販のグリースポンプで指定のグリースを給脂します。
4. グリースニップルを取り外し、ボルトを取り付けます。

使用後のお手入れ

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

⚠ 警　告

・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. **「駐車のしかた」**（☞20ページ）の手順に従い、車両を駐車します。
2. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. 外面を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。（☞45ページ）
4. エンジンオイルを交換します。（☞36ページ）
5. エアクリーナエレメントを清掃します。（☞37ページ）
6. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
7. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

アドバイス

・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

6 不具合発生時の処置

不具合診断表

・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	13ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		フューエルコックが開いていない	→フューエルコックを開く	15ページ
		エンジンオイルの不足または品質不良	→補給または交換する	35ページ
		点火プラグの汚れ等による着火不良	→清掃または交換する	38ページ
		その他（上記以外）	→**「始動のしかた」**の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	14ページ
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	13ページ
		チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	16ページ
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	13ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	37ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	37ページ
		Vベルトの緩み	→調整する	42ページ
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	35ページ
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	37ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	16ページ
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	37ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	35ページ
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	35ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アクセルレバーが引っかかる		→販売店へお問い合わせください	
走行装置関連	クラッチをつないでも車体が動かない	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		Vベルトの緩み	→調整する	
		その他（上記以外）	→**「運転のしかた」**の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	17ページ
	クラッチの切れが悪い	Vベルトの調整不良	→調整する	42ページ
	Vベルトが滑る	Vベルトの緩み	→調整する	42ページ
	ギヤ抜けする	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

6 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
走行装置関連	サイドクラッチの遊びが過大	サイドクラッチの調整不良	→調整する	44ページ
	旋回が円滑に行えない	サイドクラッチの調整不良	→調整する	44ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	転輪、スプロケット、遊動輪より不連続音または異常発熱がある。		→販売店へお問い合わせください	
制動装置関連	ブレーキの効きが悪い	ブレーキの調整不良	→調整する	43ページ
		ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
発電機関連	発電しない	アクセルレバーが「発電機使用時」になっていない	→アクセルレバーを「発電機使用時」に合わせる	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	ブレーカーがすぐ切れる	使用機器の消費電力が適正でない	→適正な消費電力の機器を使用する	
		使用機器の異常	→正常な機器を使用する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	交流（ＡＣ）が取り出せない	交流（ＡＣ）ブレーカーが「ＯＦＦ」になっている	→交流（ＡＣ）ブレーカーを「ＯＮ」にする	25ページ
		使用機器の接続が緩んでいる	→使用機器を確実に接続する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	直流（ＤＣ）が取り出せない	直流（ＤＣ）ブレーカーが切れている	→直流（ＤＣ）ブレーカーをリセットする	28ページ
		使用機器の接続が緩んでいる	→使用機器を確実に接続する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警　告

・トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。

・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。

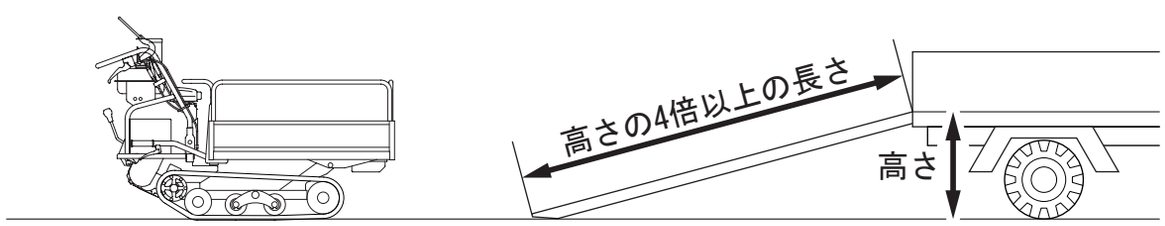
・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。

・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。

・前進でゆっくりと積み込んでください。

・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。

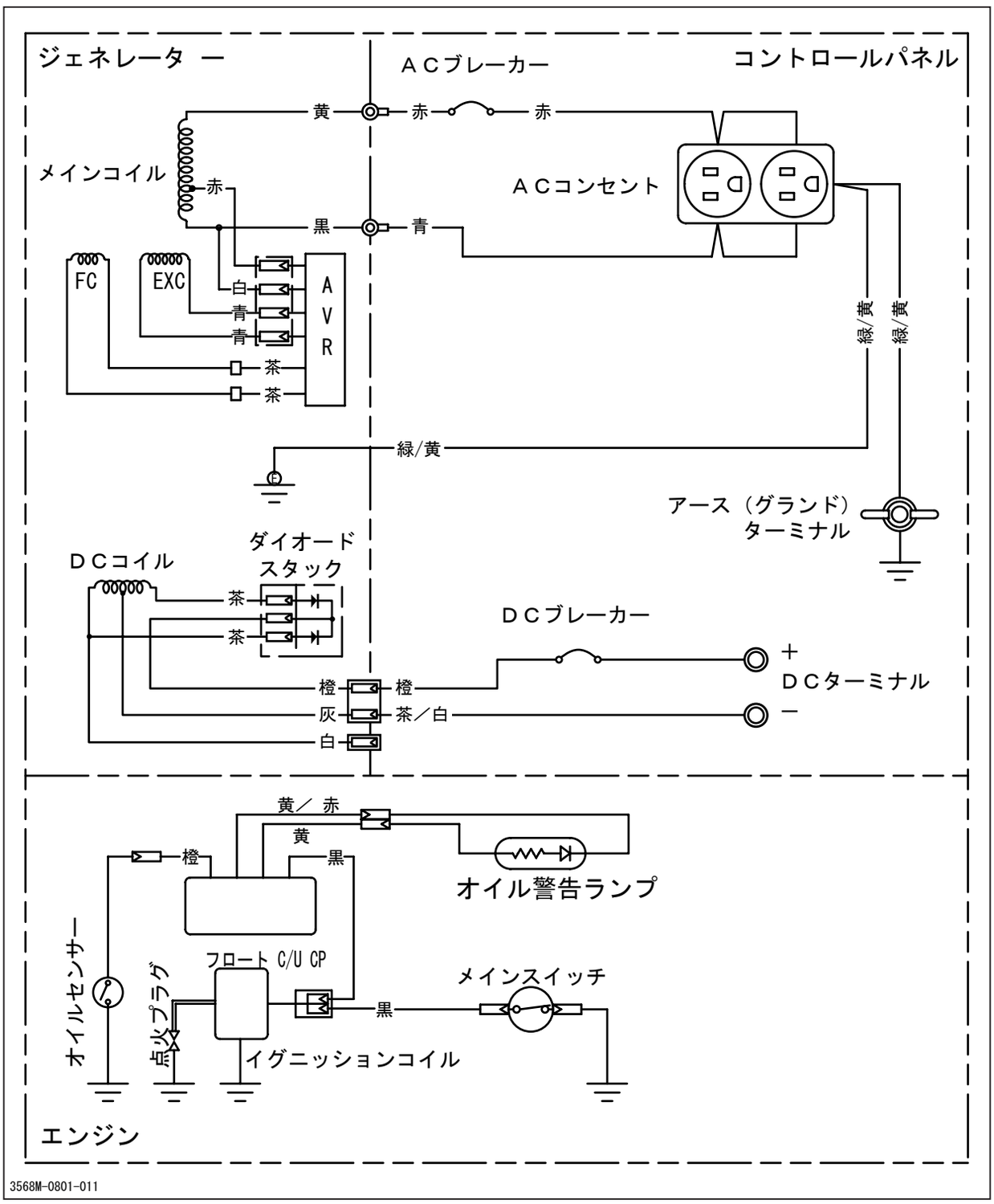
・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。



3568M-0701-010

1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 前進にてゆっくりと積み込みます。
4. **「駐車のしかた」**（☞20ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。

配線図


ジェネレータ ー
ＡＣブレーカー
コントロールパネル
黄
赤
赤
メインコイル
赤
ＡＣコンセント
黒
青
FC
EXC
白
青
青
茶
茶
A
V
R
緑/黄
緑/黄
緑/黄
アース（グランド）
ターミナル
ＤＣコイル
ダイオード
スタック
茶
茶
ＤＣブレーカー
＋
ＤＣターミナル
ー
橙
橙
灰
茶／白
白
黄／ 赤
黄
橙
黒
オイル警告ランプ
フロート C/U CP
メインスイッチ
オイルセンサー
点火プラグ
黒
イグニッションコイル
エンジン
3568M-0801-011